



樹木剪定お世話になりました

本日19日(水)は樹木剪定のプロの腕前を持たれる託麻原の主事の先生や帯西の元松先生をはじめ、7校の主事の先生方が、帯西の樹木剪定を行っていただきました。主に、正門のクスノキとさくら門の桜の木を剪定していただきました。クスノキはシンボルツリーですが、強風が吹くと大きな枝が落ちてきたり、枝が見学旅行で入校してくるバスの天井を擦り、折れたりしていました。桜の木には幹にキノコが生えていました。これは、樹木の幹内部を腐らせるキノコです。これまで樹齢を重ねてきた樹木によって、子供たちの命と安全を脅かし、予算も無く危惧してしまいましたが、今回の協力作業によって、その不安も無くなりました。高所作業車も2台借りてきていただき、その迅速な対応に本当に感謝しています。



緑の羽根募金

今年度も緑の羽根募金が行われています。期間は、**2月17日(月)~2月26日(水)まで**です。この募金活動は、緑化委員会が中心となって行っています。募金活動で集まった益金は、本校の緑化推進に役立てられ、花苗や用土、肥料等を購入しようと計画しています。募金活動期間は、緑化委員の子供たちが、朝7時40分から8時まで、児童昇降口や教室前廊下などで活動を行っていますので、是非ご協力をお願いしたいと思います。



学校とは⑤共同経営者

前回の負のスパイラルについての続きです。子供たちが平日に最も多くの時間ふれ合う大人は、学校の教員です。朝早くから学校に来る子供たちは、8時間くらい一緒に過ごすことになると思います。私も担任をしていて、最も大切にしていたことは、学級経営です。この学級経営がしっかりしていると、子供たちの学びの吸収力や人間関係形成力が違って来るからです。そこにあるのは、子供たちにとっての最大の環境要因である教師への敬意・好意と信頼です。

それでは、その最大の環境要因への悪口を言い続けると次のようになります。

①教員は悪口を言ってもいい存在だと認識する。

→保護者が悪口を言うと、子供も真似をして学校の教員の悪口を言うようになります。

②人を敬う心が失われる

→子供は、学校の教員を下に見てよい存在だと間違った理解をし始めます。そこには、本来あったはずの、教員に対する敬意・好意と信頼が失われてきます。同時に、周りの大人を敬う心構えもなくなってきます。

③制御不能になる

→大人の言うことを聞かなくなり、悪いことをしても罪悪感を覚えないようになります。行動はエスカレートし、周りの大人、本人も自分を制御できなくなります。

例えば、子供が担任から怒られて帰ってきたとします。子供が「私はこういうつもりだったのに!」と文句を言ったとしても、学校の共同経営者としての保護者は、決して一緒になってその先生を非難しないでください。非難することで子供の気持ちは一時的に落ち着くでしょう。しかし、後々の負のスパイラルの種を蒔くことになるのです。【近日中に子供の声の受け止め方を配信します!】

